



やるきほんききさき 木佐木

神奈川県議会議員
日本共産党

2026.7.29
木佐木ただまさ news
発行：党横浜北東地区委員会
横浜市鶴見区潮田 3-147-6
TEL：045-511-1021
Profile
・1984年(41歳)山口県出身
・鶴見区馬場在住
・神奈川大学法学部卒
・よこはま健康友の会会長
・横浜東民商顧問

津久井やまゆり園事件から10年。ともに生きる社会へ



差別を許さず、ともに生きる願いが込められた明かり

悲劇を繰り返さない。現地で追悼

相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で尊い19人の命が奪われた痛ましい事件から、7月26日で10年を迎えました。現地には多くの方が献花に訪れ、全国各地でも優生思想を許さない追悼集会などが催されました。

日本共産党神奈川県議団としても現地を訪れ、亡くなられた方々に深悼の意を捧げるとともに、ご遺族や利用者の皆さんに寄り添い続ける誓いを新たにいたしました。障害があることを理由に個人の尊厳を否定する凄惨な事件の記憶を、決して風化させてはなりません。神奈川県が掲げる「ともに生きる社会かながわ憲章」の理念を単なる掛け声で終わらせず、一人ひとりの尊厳が本当に尊重される社会へと具現化していくことが強く求められています。

掛け声と矛盾。問われる県の福祉姿勢

しかし、現在の県政の姿勢には大きな矛盾が見られます。県は「ともに生きる社会」を掲げ、「施設から地域へ」という方針を進めようとしています。しかし、地



域生活を支える受け皿となるグループホームや各種サービスの提供体制が十分に整っていません。

そうした体制整備を抜きにしたまま、県立施設の定員削減や民間移譲を進めることは、当事者やご家族から安心できる居場所や頼れる「最後の砦」を奪うことにつながりかねません。真に「施設から地域へ」を進めるのであれば、まずは地域で誰もが安心して暮らせる手厚い支援体制を構築することが不可欠です。

優生思想を許さず 尊厳守る県政へ

また、人をケアする労働者が蔑ろにされている医療や介護の現状を放置し続けてきたことが、現場の疲弊を生み、「生産性」で人を推し量るような歪んだ価値観を社会の底流に残す要因になっているのではないのでしょうか。ケアの現場で働く人々が大切にされてこそ、温かい福祉社会が成り立ちます

日本共産党は、優生思想やあらゆる差別・分断に反対し、すべての人の人権と尊厳が守られる社会を目指します。掛け声だけの「共生」ではなく、一人ひとりの命と暮らしを本気で支える県政をつくるため、県議の立場から全力を尽くします。

YouTubeでも詳しい取り組みを紹介しています⇒

